

平成 30 年度第二回 中央図書館区民懇談会

日 時：平成 30 年 12 月 11 日（火）
午後 3 時～午後 5 時

場 所：中央図書館 視聴覚室

- 1 あいさつ 教育委員会事務局地域教育力担当部長

- 2 説 明
 - ・「絵本のまち板橋」について

- 3 懇 談
 - ・「絵本のまち板橋」と図書館事業について
 - 「絵本のまち板橋」に対するイメージ
 - 地域や学校等との連携による効果的な事業

 - ・新中央図書館のネーミング（愛称）設定について

資料

（事前送付分）

- ・「板橋区立中央図書館基本計画」概要版
- ・「絵本のまち板橋について」

平成 30 年度 第 2 回 板橋区立中央図書館区民懇談会 概要

1 日 時：平成 30 年 12 月 11 日（火）15：00～17：00

2 会 場：中央図書館 視聴覚室

3 当日出された意見・提案

(1)「絵本のまち板橋」と図書館事業について

①図書館としての事業

・絵本と聞くと子ども、というイメージがあるが、基本は大人の力があってこそ。図書館に来ない、絵本をあまり読まないような家庭の子どもたちを、どうやって図書館に足を運ばせるかが大事だと思う。

・絵本は子どものイメージが強いが、保護者に向けたよい絵本もたくさんある。大人も絵本の世界に浸ることができる。

・図書館で子どもが大きな声を出してしまうと、周りの目が気になり気後れする。絵本のまちを打ち出していくのであれば、お話しできるエリア、お絵かきができる（絵本をつくれる）エリア等があるとよい。

・新館に設置される予定の絵本コンシェルジュはどんな役割なのか。また、本を案内するうえで外国の絵本の内容まで理解できているのか。

→その場で翻訳ができる人材というわけではない。コーディネーターに近い役割であり、絵本コンシェルジュという資格を持っているのではなく、読書相談役というイメージ。また、絵本には日本語のあらすじがついているものもある。

・外国の絵本は絵がきれいなものも多いので、子どもの感性を育んだり、絵を通して文化や生活の違いを感じ、外国への理解も深めることができる。物語が読めなくても子どもは絵だけでも楽しめると思う。

・外国絵本の読み聞かせは子どもたちの興味のきっかけづくりとなり、多文化交流にもつながる。

・新館ではポーニャの絵本はどのようなになるのか。

→蔵書の一部について個人貸出を開始する。貸出範囲は 26000 冊のうち 6000

冊を予定。多言語と日本語訳のセット絵本を一緒に借りてもらえるようにする予定。「世界を知るコーナー」の本も貸出する。

- ・ボローニャブックフェアを各館持ち回りで実施しているが、展示の場所が奥まわっていて目立たない館があるので、もったいない。入口の目の前で大胆にやった方が良い。

- ・農業まつりで赤塚図書館がリサイクル本の提供を実施していた。人が集まるイベントでは、普段図書館に来ない人たちの目にも触れるので、出前図書館のように絵本を持っていけば効果的だと思う。

- ・いたばし国際絵本翻訳大賞の入賞者が、学校に行って翻訳した本の読み聞かせをしてもらうのはどうか。

②図書館等を媒介とした区全体としての事業

- ・大山商店街のとあるお店に出前図書館として絵本等が展示されており、とても身近に感じられる。

- ・板橋区は「絵本」に対してすでに取組が盛んである。いたばし国際絵本翻訳大賞や絵本作家の養成講座（板橋区立美術館）を実施していて、全国的にも知られている。絵本作家を目指す方にとって板橋区は特別感があり有名だが、板橋区民にはあまり知られていないのが残念。

- ・制度的には整備されているが、質が伴っていないように感じる。例えば、絵本作家の養成だけでなく、その後作家となった人が板橋区の住み着いてもらえるようになればいいと思う。

- ・子育てママが作成している冊子で絵本に関する発信をしてもらう等、区民の力を借りることもよいのでは。

- ・区内の印刷会社で生産された絵本を「板橋区で生まれた本（メイドイン板橋）」として特集展示するのはどうか。

③その他

・絵本というテーマについて話し合うには子育て世代の親の意見が重要になると思うので、懇談会以外にも意見を集約する場があった方が良い。

・絵本だけにテーマを絞っていることが少し懸念される。このテーマを基本にして具体的な事業展開を忘れてはいけない。区民全体に対するサービスも大切にする必要がある。

(2) 新中央図書館のネーミング（愛称）設定について

・ネーミングライツはするか。

→いまのところ予定はない。

・公募してはどうか。

→他自治体を参考にしていると、広く公募した場合、施設の特徴が出にくい傾向もある。区民の声を聞きながら検討していく。

・キャラクター等は連動して作成するのか。絵本のまち、を謳うのだから絵本作家にマスコットを作成してもらってもよいのでは。

→いまのところ予定はない。

○ネーミング案、イメージワード等

・板橋区の頭文字の「i」を付ける。「i（あい）ハート」等。iの上の点をハートにする

・リブロ（イタリア語で本の意）

・五本けやき、縁切り榎

・平和・ピース、平和公園とのつながり

・パーチェ（イタリア語で平和）

・イタリア語で表す

・i（あい）ふれあい図書館（板橋区は人と人の豊かな関わりがあるから）

・知の森図書館（平和公園が東京教育大学寮の跡地だから）

・世界の絵本と出会う町

・平和の池図書館

・親子の図書館

・親子で楽しむ図書館

・遊べる図書館

・公園図書館

・フォーレ p・c またはフォーレスト p・c

（英語で森 forest、平和 peace、文化 culture）

- ・フォレストa pb・c

(イタリア語で森 Una foresta、板の橋 Ponte a Bordo、文化 cultura)

4 追加の意見・提案

・毎年開催されているボローニャ国際絵本原画展の作品は、国の文化や生活の違いが読み取れて、世界の動きを感じられる。「絵本のまち板橋」は絵本をとおして世界の未来に希望を発進していると思う。絶やさず、継続していくことが大切である。

・「絵本のまち板橋」のイメージとしては、新館のボローニャギャラリーでは代表的な絵本の紹介が大型スクリーンにいつも映し出していたり、展示されていたり、図書館ボランティア等の方が呼び込みをして毎日読み聞かせを行っている、などが考えられる。

・小学校の英語科導入が進んでいる中で、世界の絵本を扱う板橋の児童館、学童保育、学校として資料の充実だけでなく、バイリンガル読書の支援ができればいい。また、こうした読み手や読書相談、出前授業の推進のための人材育成をするためにさらなる講座の実施が必要になってくるのではないかと思う。

・区内の朗読団体や町内会、自治体との連携を強化して「絵本のまち板橋」の推進を図るのはどうか。例えば、朗読団体等が行っている朗読会ではボローニャギャラリーの絵本を必ず取り上げ、中央図書館は地域図書館と連携してこれらを支援するなど。

絵本のまち板橋について

【 区の文化事業としての位置づけ 】

「板橋区文化振興基本計画 2020」

「絵本のまち板橋」などの代表的な文化イメージの推進

区が今後推し進めていく事業展開として、板橋区とボローニャ市との絵本を介した両者のつながりや友好提携から現在にいたるまでの絵本に関する経緯を踏まえたうえでの「絵本のまち板橋」といった、区の特性を際立たせる。板橋区ならではの文化をイメージできるような個別事業に注力するとともに区民に広く周知すること。

【 絵本のまち板橋とは 】

○いたばしボローニャ子ども絵本館からの発信（絵本から世界を感じる取組）

- ・いたばしボローニャ子ども絵本館に所属する「ボローニャ国際児童絵本展」から寄贈された海外絵本を区の貴重な資産・魅力として、区内外に発信する。
- ・外国語の絵本を通じて様々な文化を知り、国際理解を深める未来を見据えた文化を創出する。

○絵本との出会いづくり（絵本があふれる街づくり）

- ・区内の身近な場所に和洋問わず絵本が置かれ、絵本を手にとって、親しめる環境づくり。

○世代を超えて味わう

- ・絵本を通じて、子どもたちの創造性、感性を育み、読書活動を推進する。

「絵本が ころこの豊かさ育む 文化のかがやくまち」

をスローガンに子どものみならず大人世代にまで絵本の楽しさや魅力を感じられるような環境整備を目指し、図書館事業の取組を実施してまいります。

現在検討している図書館での「絵本のまち板橋」の事業コンセプトです。

これらを踏まえて、①皆さまがイメージとして思い描く「絵本のまち板橋」とはどのようなものか、②「絵本のまち板橋」を目指していくために、図書館としてどんな事業が効果的と考えられるかなどを当日お聞かせいただければと思います。

板橋区立中央図書館区民懇談会委員名簿

【任期：平成30（2018）年9月5日～平成32（2020）年3月31日】

	名 前	備 考
会 長	大串 夏身	学識経験者（昭和女子大学名誉教授）
委 員	梶川 悦子	図書館司書代表（株ヴィアックス研修担当）
	東 みどり	区立小学校長代表（舟渡小学校）
	北村 康子	区立中学校長代表（志村第四中学校長）
	阿内 三智子	区立幼稚園代表（高島幼稚園）
	角田 真弓	区立保育園代表（南前野保育園長）
	伊藤 文子	図書館利用者代表（対面朗読ボランティア）
	羽深 由美子	図書館利用者代表（読み聞かせボランティア）
	柴田 陽子	図書館利用者代表（絵本館ボランティア）
	古屋 眞	図書館利用者代表（視聴覚室等利用団体の方）
	鈴木 洋仁	公募委員
	谷 隼太	公募委員
	保坂 恵真	公募委員
村山 敦子	公募委員	

【事務局】

教育委員会事務局 地域教育力担当部長

教育委員会事務局 中央図書館長